

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21530576

研究課題名（和文） 1950 年代地域サークル文化運動の歴史社会学的研究：活動基盤とネットワーク化

研究課題名（英文） A sociological study of 1950s' circle movements about their bases and networking of activities from historical perspective.

研究代表者

道場 親信（MICHIBA CHIKANOBU）

和光大学・現代人間学部・准教授

研究者番号：60287951

研究成果の概要（和文）：

サークル文化運動においては、個別サークルにおける継続的な活動を支えるキーパーソンが重要な役割を果たしているとともに、他のサークルと連携する際には広域的なキーパーソンの有無がその広がりや強度を左右していることがわかった。とくに詩や創作などの文学サークルにおいては雑誌発行は必須のものであり、全国のサークル誌から有力な作品を転載する「中央誌」の存在は、サークル運動の相互認知と活性化のための重要なメディアとしての機能を果たしていたことが注目される。この点を各地のサークル（誌）と「中央誌」の関係者にインタビューをし、資料の調査を行なった。

研究成果の概要（英文）：

In the cultural circle movements that sprang up locally in the 1950s, key figures played a crucial role in developing small-group cultural activities by providing continuity and leadership. At the same time, some key figures succeeded in organizing a wider network of circles on a regional basis. It is clear that the presence or absence of such leaders exerted a large impact on the breadth and intensity of such networks. This was especially true of literary circles focused on poetry or novel writing. Here, the publication and circulation of mimeographed magazines became imperative. The existence of nationwide literary magazines that reprinted the most important work from local publications across Japan became an important media form that promoted mutual awareness among the various groups and invigorated their activities. Focusing on this feature this research interviews individuals active in circle publications at the local and centralized levels and surveys the pertinent literature.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：サークル、文化運動、ネットワーク

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

「1950年代」という時代は、政党や労働組合を中心としたものを除けば、社会運動史的には大きな欠落を抱えた時代である。前半には占領時代を含み、後半は高度経済成長の始動期というコントラストの中で、二つの時代に挟まれ、この時代固有の社会像・歴史像は探求されることが少なかった。だが、近年50年代への関心が高まる中で、この時代に特有の盛り上がりを見せた「サークル運動」に注目した研究が現われ始め、また当時の雑誌復刻の動きも存在していた。本研究の第一の背景は、こうした研究動向にある。

以前の研究では、労働組合、反基地運動、あるいは安保闘争などの「革新国民運動」に対する政治社会学的な蓄積や60年代末以降の開発や環境問題をめぐる住民運動・市民運動の研究などの蓄積はあるが、小単位のサークルへの蓄積はほとんどなく、サークルに注目してきた社会教育学や「思想の科学」系の研究動向においては、個々のサークルの生態的分析が中心となり、社会運動史的関心は薄かった。いいかえれば、政党や労働組合の政策に大きな影響（しばしば従属的な影響）を受けたものとしてこの時代のサークル運動を扱うか、さもなければ政治的背景を後景化して個別のグループの内的なダイナミズムに注目する傾向が強く、マクロ動向とミクロ動向に分かれたまま、いずれもサークル運動を通して同時代の社会運動史を読み直すという志向は弱いものであった。

2. 研究の目的

本研究では、こうした政治の過剰と過少の二つの傾向のいずれにも与することなく、この時代のサークル運動が持っていた自律性とダイナミズムを取り出す一方で、そこから「革新国民運動」全盛であったこの時代の運動史を読み直すことを目的とする。以下、具体的な課題は次の通りであった。

- (1) 基盤と地域の異なるサークル運動の実態解明（東京・名古屋・福岡・山形／秋田、中小工場労働者地域サークル・公務員職場サークル・炭鉱職場／地域サークル・農村地域サークル）
- (2) サークル間ネットワークの実態解明
- (3) 全国組織との関係（詩運動社、国民文化会議）、とりわけ国民文化会議「全国サークル交流誌」構想のリアリティと可能性の検証

3. 研究の方法

研究対象を4つの地域に分けるとともに、地域をネットワークする雑誌・活動として

『人民文学』『詩運動』誌や国民文化会議などの動きを合わせて研究するものとし、それぞれに課題を設定して文献調査、インタビュー調査を進めるとともに、入手した資料のPDF化、インタビューの活字化、資料復刻などを進めた。

＜対象1：東京南部＞「下丸子文化集団」を中心として、サークル活動のインタビュー調査と資料の電子化を進める。

＜対象2：名古屋＞名古屋市役所で1951～72年の間存続した文学サークル「とけいだい」の文献調査とインタビューを進める。

＜対象3：福岡筑豊＞『サークル村』を中心に、職場・地域のサークル雑誌の文献調査とインタビュー調査を進める。

＜対象4：山形・秋田＞山形の真壁仁を結節点としたサークルのネットワーク、また秋田の白鳥邦夫が主宰していた「山脈の会」がもつネットワークについて文献調査とインタビュー調査を行なう。

＜全国ネットワーク＞『人民文学』誌、『詩運動』誌の関係者へのインタビュー調査、国民文化会議関係者へのインタビュー調査と文献調査を進める。

4. 研究成果

4年間の助成を受ける中で、「5. 主な発表論文等」に示した論文や学会・研究会発表などを公にすると共に、『東京南部サークル雑誌集成』、『人民文学』の2つの復刻版を不二出版から刊行することができた。とくに後者は業績（論文④）を受けて実現したものであり、研究の副産物と言える。1950年代における東京南部・名古屋・筑豊・山形の4地点でのサークル運動のネットワーク化とその基盤を調べ、サークル・ネットワークが広がる上で、『人民文学』『新日本文学』『詩運動』などの全国誌の影響についても明らかにした（とくに図書②）。以上の研究を進める上で、文学史・思想史・芸能史・社会運動史など各地の専門の異なるサークル文化運動研究者と連携を進め、本研究費の期間には第3回～第6回の「戦後文化運動合同研究会」（年1回）を組織し、研究者間のネットワークを広げることができた。また、2009年の『東京南部サークル雑誌集成』刊行を記念して当時の関係者によるシンポジウムを東京都大田区で開催し（09年11月）、また大田区教委主催の「大田区民大学」でも講義を行う（11年10月）など、地域の歴史を地域に還元することができた。

個別の対象地域に即していうと、対象1については、上記資料復刻を軸にシンポジウムの実施、複数の論文の執筆が主な成果である。

また、サークル誌を蒐集されていた研究協力の方が亡くなられ、その遺品整理と資料の分析を研究終了直前にご遺族から依頼いただいた。この作業については今後の研究の中で取り組んでいきたい。

対象2については、『とけいだい』全冊を拝借することができた。量的に膨大であり、現在PDF化作業を継続しているところである。

対象3については、筑豊地域のサークル誌研究を進めている複数の研究者と共同作業の場を設け、議論と情報の交換を進めることができた。他の対象に対して研究が進んでいることもあり、この地域への研究上の関わりは、他地域との比較に重点を置いて進めた。

対象4については、山形県国民教育研究所に相当量の地域サークル誌が保存されていることがわかり、文献調査を進めることができた。

全国ネットワークの面では、法政大学大原社会問題研究所での国民文化会議資料の調査に基づく学会・研究会発表と、『人民文学』誌発行責任者であった柴崎公三郎氏へのインタビューとその活字化を鳥羽耕史氏と共同で進めることができた。さらにこの柴崎氏インタビューを基盤とした『人民文学』誌復刻の作業も行なうことができ、この復刻資料の「解説」の中で50年代前半における全国的なサークル詩運動の広がりの中での『人民文学』誌の果たした役割について論文を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 道場親信・丸山尚「日本ミニコミセンターから住民図書館まで：丸山尚氏に聞くミニコミ・ジャーナリズムの同時代史 1961-2001」『和光大学現代人間学部紀要』第6号、pp. 175-242、査読有、2013年3月 (<http://www.wako.ac.jp/human/kiyo/file/2013-175-242.pdf>)
- ② 道場親信「ゆるる運動主体と空前の大闘争：「六〇年安保」の重層的な理解のために」『年報日本現代史』第15号、pp. 81-146、査読有、2010年6月
- ③ 道場親信「安保闘争と「市民としての抵抗」：『思想の科学』に見る「六〇年」と「七〇年」」『現代の理論』第23号、pp. 106-120、査読無、2010年4月
- ④ 道場親信・柴崎公三郎「文学雑誌『人民文学』の時代：元発行責任者・柴崎公三郎氏へのインタビュー」(鳥羽耕史と共著)『和光大学現代人間学部紀要』第3号、pp. 209-237、査読有、2010年3月 (<http://www.wako.ac.jp/human/kiyo/file/kiyo3-16.pdf>)

- ⑤ 道場親信「「原爆を許すまじ」と東京南部：50年代サークル文化運動の「ピーク」をめぐるレポート」『原爆文学研究』第8号、pp. 190-203、査読無、2009年12月
- ⑥ 道場親信「流動の世に創造の喜び 50年代日本サークル運動の意味」『朝日新聞』p. 13、査読無、2009年11月26日夕刊

[学会発表] (計10件)

- ① 道場親信「『サークル誌の時代』を読む」第6回戦後文化運動合同研究会、早稲田大学、2012年9月
- ② 道場親信「国民文化会議と北九州国民文化会議」第5回戦後文化運動合同研究会、福岡市中央図書館、2011年11月
- ③ 道場親信「1950年代サークル文化運動と60年代社会運動：国民文化会議再考」日本社会文学会春季大会シンポジウム報告、二松学舎大学、2011年6月
- ④ 道場親信「「60年安保」における50年代／60年代の重層性」占領戦後史研究会大会シンポジウム報告、二松学舎大学、2010年12月
- ⑤ MICHIBA Chikanobu「The 1960 Ampo Protests as a Convergence of Historical and Political Forces」第14回日本アジア研究会(ASCJ)報告、早稲田大学、2010年6月

[図書] (計7件)

- ① 酒井哲哉編『シリーズ日本の外交3 外交思想』岩波書店、2013年4月(共著、道場親信「原水爆禁止運動と冷戦：日本における反核平和運動の軌跡」担当、pp. 225-255)
- ② 不二出版編集部編『「人民文学」 解説・解題・回想・総目次・索引』不二出版、2011年8月(共著、道場親信「サークル詩運動から見た『人民文学』：下丸子文化集団を中心に」担当、pp. 25-69)
- ③ 西澤晃彦編『労働再審4 周縁労働力の移動と編成』大月書店、2011年9月(共著、道場親信「工場街と詩：『詩集下丸子』の時代を読む」担当、pp. 201-267)
- ④ 記念シンポジウムを記録する会編『読む人・書く人・編集する人：『思想の科学』五〇年と、それから』思想の科学社、2010年9月(共著、道場親信・黒川創・加藤典洋・坪内祐三・上野千鶴子・橋爪大三郎「公開シンポジウム『思想の科学』は、まだ続く(第二部パネルディスカッション)」担当、pp. 35-80、道場親信「『思想の科学』総索引」から見えるサークルの動き：サークル戦後史研究会の活動から」担当、pp. 134-143)
- ⑤ 岩崎稔・上野千鶴子・北田暁大・小森陽一・成田龍一編『戦後日本スタディーズ1 「40・50」年代』紀伊國屋書店、2009年9月

月（共著、道場親信「年表 1940～1960年」担当、327-370）

- ⑥不二出版編集部編『東京南部サークル雑誌集成 解説・解題・回想・総目次・索引』不二出版、2009年7月（共著、道場親信「無数の「解放区」が異なる地図を作りだしていた時代」担当、pp.7-40）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

とくになし。

6. 研究組織

道場 親信 (MICHIBA Chikanobu)

和光大学・現代人間学部・准教授

研究者番号：21530576

以上。